

(財)川崎市国際交流協会の講師紹介

『瀋波雑技団が川崎市国際交流センターにやってくる!』

「瀋波雑技団」 段海波さん・鳳香さん



段海波さん

私たちは、2009年に段海波の芸歴30周年を期に日本で結成した雑技団です。団名は、「瀋陽市(中国)出身の段海波」の最初と最後の字を取りましたが、雑技団には獅子舞もあることから、ディズニーの「ライオンキング」の主人公・シンバを意識して、「シンバ雑技団」と読ませています。シンバのように、どんな時でも仲間を信じて皆で頑張り、前を向いて素晴らしい未来を作っていこうという願いを込めています。

それは、私たち団員の和であり、お客様と共有する時間であり、そして何より私たちの大切な拠点である日本と、母国中国の、あたたかい関係への願いです。いつか中国と日本の親善大使のようになれたらと思っています。

今回の公演では、皿回しや軟体、中国ゴマなどの雑技ショーの後、観客の皆様にもジャグリングやディアポロ(中国コマ)の体験をしていただく予定です。お楽しみに!(日時、申込等の詳細はP7に)



鳳香さん

たぶんかこうさてん
多文化交差点⑧

【キッズ編】

川崎ジュニア文化賞

子供親善大使使節団姉妹都市ウーロンゴン市訪問



川崎信用金庫は、川崎市内に在住・通学の小学5、6年生を対象に、毎年作文と絵画のコンクールを実施しています。そして、国際親善の一助として、大賞受賞者4名(作文の部2名、絵画の部2名)を川崎市の姉妹都市・オーストラリアのウーロンゴン市に子供親善大使として派遣しています。

今年は、8月17日から22日までの日程で、「子供親善大使」が真夏の日本とは対照的な真冬の南半球の姉妹都市を訪問しました。

ウーロンゴン市にあるイラワラ・グラマー・スクールでは、小学校同年代のクラスを訪問し、授業にも参加しました。音楽や美術、外国語など様々な学科の授業内容や各施設の充実ぶりを見て、親善大使

の子どもたちは羨望の念を抱いたようです。授業の後は、折り紙で鶴や紙ヒコーキを折って現地の子どもたちに日本の文化を紹介し、交流を深めました。

市庁舎での式典後のパーティーでは、現地の日本語学科の大学生たちと日本語と英語で交流を図り、川崎の子どもたちの代表として大きな役割を果たしました。

公式行事の他にも、オペラハウス見学や乗馬など貴重な体験もでき、初めて見る光景に感動した様子でした。また、今回は「川崎ジュニア文化賞」20周年記念ということもあり、ウーロンゴン市の好意でサーカス(サルティンバンコ)公演を見学させてもらうというサプライズもありました。

今後も「川崎ジュニア文化賞」は開催される予定で、当協会も「川崎市国際交流協会会長賞」を通して協力しています。川崎市の多くの子どもたちが、このような経験を通じて国際感覚を身につけてもらえるとうれしいです。

(文:編集ボランティア 伊東 都)



▲小学校訪問や式典の様子